

風の流氷

【短歌】
岡崎 桜雲 選

◆一般投稿作品◆

月光のあまねく照らす胸の内あおき哀しみ静かにやどる
 久しぶりの病院帰りの友の手は気持ち良いほど低体温と
 美しい日本の歌を聞きおれば子供の頃に戻るよしよし
 八人の家族賑やかに過ぎし日の思い出残し今は空き家に
 八月の下弦の月は青空に白く溶け込み静かに沈む
 コロナ避け山路を行けば秋深し野菊石路またりんどうの咲く
 青春もおぼろとなりて立ち向かう北山脈の稜線豊か
 はや着替へ机辺に戻り凛々しかりトランペット奏者はデイの職員
 薄暗き虫の音聞きてウオーキング満月西に見ながら歩く
 「わが喜び」と讚美歌うたふ老人よ今日は元気で声も高らかに
 古里は古稀年齢の若者が氏神水路農道守る
 草刈りて焼く人あるに思いあり集めて積めば推肥となるに
 誰一人訪ね来ぬ家一人にて守りし吾の心の内は
 故里の山は動かさず香ること今宵十五夜透きとおる宵
 漸くに八十八ヶ所修めたる杖を置きたり椎の花咲く
 久々の帰郷の息子送る朝薄紅の箒木揺るる
 五輪の選手らをなじるのは筋違い映えある日々の素敵な笑顔
 「チャン」付けて老いも若きも呼びくれて早やこの里に六十年生く
 老いの身の畑仕事は二時間と決めて無理なく日々励みおろ
 電線に横ならびする燕たち楽譜のごとし田植えはじまる
 皆で囲むワインの宴を想ひつつたわわなブドウ背伸びして採る
 タリバンのテロの映像をまつすぐに見つめ少年は何を思へる

山崎 貴子
 伊藤 清子
 岡本 初美
 小松 敏子
 原 茂
 山中 逸朗
 坂上のぶ子
 大岸由起子
 畠山 千江
 小原 子川
 森本 幸美
 五百蔵利美
 高田 清子
 西野地 薫
 山崎 雅也
 中村 紫乃
 公文 千恵
 吉本 悦子
 門田 明子
 松中 賀代
 小松 禮子
 竹村 咲子

緊張と爽快感が交差した五輪卓球の中国戦よ
 名勝負水谷伊藤の球は直球逆転金にはじける笑顔
 頭上翔ぶ秋茜のむれ見上げたる視野の限りの空澄みわたる

大石 綾子
 武内 弘子
 公文 正子

◆高知アララギ短歌会◆

絵の展示われに見せむと来し夫が戦友の絵の前にて何も語らず
 隔たりぬし時ながくしてこの今に声に覚えあり電話の向う
 拾いし仔猫獣医に診せて飼主も見つかるまではと娘はおいてゆく
 花冠大きくれないの花の咲いている坂を上りゆくきみのみ墓へと
 「脳トレは脳よみがえる」の一言に誘われゆくもの忘れの日々
 夜中にて父は踏ん張るシルバーカーに声なき声に力を込めて
 開会式白黒画面の浮かびくる父奮発の初テレビなりき
 障子紙娘に言われ今日は貼る妻に逝かれて五年となりぬ

◆「澇光」グループ◆

紫陽花も水木も躑躅も咲き終わり稲花立ちてもコロナ禍はまだ
 担当の美容師さんは亡き友の姪ごと狭き世間に驚く
 一列に並びしキビは実をため今年に狐現れざるや
 コンサート終えてほっこり充足感迷いなくして歌えた喜び
 画面越し幾度も手を振り名を呼ぶもりモート面会笑顔無き祖母
 夫の手で授粉助けし杏子の木見上ぐる葉陰に小さき実のつく
 一手間をかける大事の尊さがわかりはじめる今日のみそ汁
 日本は飽食社会世界には食べられぬ人数多いたるのに
 耳もとにささやくごとき体温計電子は風邪を慰めくれず
 紫陽花が終わると一輪又一輪姫向日葵の元気な黄色

秋 星
 寺内 啓子
 溝淵 龍泉
 中村 佐代
 井上 有子
 尾立ひとみ
 小松 美鶴
 吉川 恵
 町 耿子
 刈谷美代子

俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載を希望される方は、掲
 載月の前月1日までに、「応募ください」
 【投稿先】香美市役所総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
 〒782-8501（住所記載不要）FAX 53-5958

第15回香美・香南地区短詩型文学振興大会

短歌の部

（選者 岡崎桜雲）

特選 巻きぐせを戻し日の丸掲げたり
 孫寄りつかぬ「ごどもの日」なれど
 優秀 明日使ふ鎌を水路につけてるて
 手元を不意に螢の通る
 今日一日の我を労いくるるがに
 老鶯の鳴く日暮るる里に
 佳作 アフガンに井戸掘り継ぎし医師ありて
 水に平和のうねり託さむ
 飛び込んだ映像疑うその瞬間
 土砂が崩れて家をも呑み込む
 佳作 雪の降るこの山道を訪れし
 妻と来たるは幾年前か
 病む父を支へて働く若き日の
 母の笑顔に八重歯のありき

古川 安子
 公文 正子
 吉本 悦子
 中村 定子
 岩井美智子
 宮地 亀好
 山下由美子

俳句の部

（選者 味元昭次）

特選 中つ瀬の風を去して合飲の花
 宵待草と日暮れの母を待っている
 優秀 鬼百合となったきっかけ訊いている
 父逝きし其の夜の銀河忘れ得ず
 佳作 煮大豆内輪ばかりの佛ごと
 嫁がせて会へぬ三年鱒雲
 佳作 買はねども叩いてゆきぬ犬西瓜

佐竹 洋子
 櫻谷 雅道
 尾崎 百代
 山崎 雅也
 森本 之子
 山崎 鈴子
 乾 真紀子



香美市民憲章

—平成24年4月1日制定—



前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。
 先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、
 誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

- 本文
- 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
 - 1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
 - 1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
 - 1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
 - 1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

